

唐丹文集

「さち草」詠草

唐丹短歌会

○ 玉手箱ふたはいつしか開きいて白髪となりて老いと真向かう
 ○ 住みなれし生まれし土地も代変わり若者忘れわれは老いけり

大津秀子

○ トンネルを抜けると其処はみはるかす木木雪造りの妙なる世界

上野ウタ子

○ 川土手の水澄む流れ遠野路の川面に映る河童のまぼろし

○ 語り部や河童すむ里にやすらぎぬ望郷ロマン夕映えのいろ

磯崎 彬

○ いとおしくただいとしくていとしくてむすめの孫はリアスの郷に
 ○ 喜寿むかえ通院重ねし友の死をいたむ夫にいやす術なし
 ○ ひなまつり大雪ふりて宝まご来られぬ由のメール悲しく

環 あき

○ 夢に見し先立ちし子と夫の居る薄暗がりに会話の欲しき
 ○ 朝毎に詣る我はもいつの日か仲間入る日も間なくあらなむ

中嶋多喜子

○ そよぐらむ孫の縁話に薄氷ふて賀状で和み恋ふて筆執り
 ○ 畳紙の衣装広げて孫の肩明日の納儀を胸にあつりて

須具美佐子

○ 三陸の大津波知る吾にして祖父の背に聞きし波の音忘れず
 ○ 地震なき津浪に驚き娘を負いし亡夫と避難の晝闇のあの日よ

高橋昌子

○ 現世にてあまた役割果たしたる夫よ彼岸に安らぎたまへ
 ○ ふきのたう摘みつつうかぶ在りし日の朝餉に笑みし夫の笑顔

梅花講員の募集

私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
 私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。
 私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくりまします。

梅花講の日時

毎月17日 午後1時 盛岩寺本堂にて
 第4日曜日 午後1時 盛岩寺本堂にて

お申し込みは下記へ連絡下さい

55-2158番 (高橋昌子)

55-2174番 (盛岩寺)